

(1) 大阪府立北千里高等学校 学校運営協議会 実施要項 改正について
承認

(2) 本年度学校経営計画の進捗状況について

- ①コロナ禍の中、地域連携が課題
- ②国際交流（海外研修）が難しい中、積極的に様々なチャンネルを開拓する取り組みに期待が持てる。
- ③地域連携の取り組みを行っていることに、前向きな姿勢を感じる。
- ④修学旅行の英語のプレゼンはYouTubeでの配信があってもよかった。
- ⑤なぜそれが必要なのか、本質を大切に学校経営が行われたことが推察される。
- ⑥地域の強みを生かし、小学校と高校の相互授業見学など、学びの機会に期待する。

- ・コロナ禍の状況の中で、例年通りに実行できない中、順調に進んでいると思う。
- ・コロナ禍で人の移動などに障壁があっても、物の移動やオンライン上での情報の移動は可能。積極的に様々なチャンネルを開拓し、アクセスするという意味で、「オンライン留学」や「国内留学プログラム」は期待が持てる。
- ・今までに経験のないコロナ禍の中、色々な代替案も必要だったであろう。with コロナのスタイルの試行錯誤は「考える力」の育成のチャンス。
- ・児童・生徒も教職員も保護者も、不安と閉塞感の中、資料からは「なぜそれが必要なのか、何のためにするのかの本質を見失わず、小さなことでもしっかりと地に足の着いた活動の積み上げ。」を行うことを軸に学校を運営されていたと推察。
小学校は今年度より学習指導要領の改訂が実施され、レクチャー型の授業から全員授業に主体的に参加し、児童から出た疑問から言葉をつなぎ問題を解決していく授業スタイルに変える努力を日々行っている。
近隣の強みとして、お互いの授業を見学し、小学生がどのような素地を身につければいいのかなど、意見を交わし交流して学ぶ機会ができることを期待。
- ・探究心の育成、人間性の育成、どちらも資料から熱心な教育状況がうかがえた。また、ノルディックウォーキングの資料、興味深く見た。新型コロナウイルスの影響で、特に地域連携については取り組みが難しく、今後どのような形で地域と生徒と交流を保っていくのが課題。

(3) 学校の取組について

- ①コロナ禍の中、体育祭、文化祭や修学旅行など学校行事を実施されたことは生徒にとってとてもよかった。また、先生方の努力、前向きさを感じた。
- ②SDGsの取組みはこれからも重要である。保険の授業で自分たちの行動と結び付けて考えられたことは良かった。今後に期待する。北千里高校としてどの項目に特に力を入れていくのか、焦点化されるのもよい。
- ③授業見学ではペアワークやグループワークの取組みが多く、高校での取り組みの可能性を感じた。積極的にプロジェクターを活用した授業展開を望む。

- 例年と異なる環境、スケジュールの中、体育祭と文化祭をどちらも中止することなく開催でき、生徒たちも嬉しかったのではないかと。学年ごとに取り組む課題があり、それをこの環境下で先生方が工夫されている状況が資料を読んで深く理解できた。
- コロナ禍の中で、各部署とも工夫しながら、当初の計画を実行していると感じた。特に、修学旅行、文化祭、体育祭など、外部とも調整が必要であり、また密を避けるなど難しい中、行事を実行できて、生徒も満足したことと思う。お疲れ様でした。
- 授業見学のシートをつくられたことはよい。今後は、それを材料にしてこういった授業者へのフィードバックができるかが大事。また、授業者へのフィードバックは合わせて自分にも返ってくるので、シートを通しての学び合いになればよい。
- SDGs はこれから全ての評価基準になる。すぐにどれかに取り組む事より SDGs が自分にとってどの様に重要なのかを知る必要がある。
- SDGs についての取り組みは、非常に大切なこと。17の目標のうち、北千里はどの目標に力を入れていくか焦点化されるとより良いかと思った。修学旅行との関連付け等イベントとの関りにくわえて、通常授業で SDGs の視点をいかに取り入れていくかが大切。すでに「保健」の授業で、自分たちの行動と結び付けて考えられたとのこと。それらの取り組みが成果に結びつくことを期待。
- 11月30日の授業見学の感想
 - いくつかの教室で、ペアやグループでの話し合い活動が行われていた。義務教育段階では、課題に対して向き合う子ども達の姿勢も散漫になりがちなところに教師側の苦勞もあるが、高校生レベルではもっと高度な課題を提示しても、十分にやっつけられるのではないかと。これからの可能性を感じた。
 - 教師によるチョーク&トークを主とした講義一辺倒の授業は、こういったチャレンジから変わっていくのだと大いに期待が持てた。
 - 教師によるチョーク&トークが全くなくなることはないかもしれない。重要な要素を占める板書についても、板書する時間や情報量の限界など課題はある。近頃中学校では、数学の証明問題での補助線や、理科での天体の動きなど、パワーポイントのアニメーション機能を使った試みもなされている。何を板書で残し、何をスライドで示していくのか、今後の授業研究の課題でもある。
 - 設備面での課題はあるかもしれないが、ペアやグループでの活動とともに、積極的にプロジェクター等の利用を望む。
- 3年生について、オンライン授業や課題等の活用は、生徒自身が持つ携帯電話を活用したと思われる。小学校では、端末を持っていない家庭があることや、低学年は端末の操作が難しいことから、全員が同じ条件下にないと判断し、プリント配布、課題の保護者による受け渡しの方法をとった。今の時代の高校生ならではの良い活用例。2年生については、修学旅行2日目の活動を生徒自身が計画し実行することで、自身の楽しい思い出を作り上げたことだろう。指示されたことができる人より、自分自身で考え企画と提案・実行ができる人を育てる、今の教育にもってこいの学習。1年生は、期待と不安の高校生活の出だしが、コロナ禍によりスムーズにスタートできなかったのではないかと。本校でも大切な4月5月の学びが無くなり、子供たちの様子が何か違うと感じている。学校生活が進むにつれ、児童・生徒は安定してきているが、窮屈な思いはぬぐえない。

- 例年と異なる環境、スケジュールの中、体育祭と文化祭をどちらも中止することなく開催して頂けたのは、大変ありがたく生徒達も嬉しかったのではないかと。学年ごとに取り組む課題があり、それをこの環境下で先生方が工夫されている状況が資料を読んでより深く理解できた。

(4) 学校教育自己診断について

- ① 質問項目を大幅に整理し、さらにグーグルフォームにより業務負担の軽減を図られていて前向きな姿勢を感じる。
- ② 経年変化を見ていくことも大切。小学校と比較して、項目数が多いように感じる。

- 質問項目が大幅に減少し、整理された。特に、抽象的な質問や保護者では判断が難しいと質問が整理された。保護者は3年間回答するので、毎年少しずつでもこのように項目の見直しがあると学校教育の取組みに興味をもって回答できると思う。
- 全般的には、肯定度の高い数字が出ていて良いが、数字が低い項目気になった。
 - ① 保護者用
 - 23—希望する進路の実現の観点から子どもの家庭学習量は十分だと思った。
 - ② 教員用
 - 46—職員会議を始め、各種会議が、情報交換と課題検討の場として有効に機能している。
 - 51—施設・設備について日常的に点検や管理が行われている。
 - 55—研修、研究に参加した成果を、他の教職員に伝える機会が設けられている。
- グーグルフォームを用いての作業負担の軽減、多くのデータの収集、保護者対象の質問の見直しなど、「学校教育自己診断」を例年通りこなすというのではなく、中身を見直されていることに前向きな姿勢を感じる。経年変化の状況を確認する意義も学校教育アンケートにはあり、同じ項目から探ることも大切。小学校と違い、質問項目が非常に多く、内容が細かい。似たような項目も多いと思った。
(小学校では 児童21項目・保護者17項目・教職員18項目)
- 去年度は先生方の努力によって抑えられた遅刻件数が増加傾向にあることは残念。単純に比較できませんが、コロナ感染症の影響もあり生活リズムの乱れが起きていたのかもしれない。学年別での対応をしているとのことで安心した。
- 質問事項が大幅に減少、整理され、特に、抽象的な質問や保護者では判断が難しいと思われる質問が整理されたと思う。保護者は3年間、回答するので、毎年少しずつ、このような項目の見直しがあれば、学校教育の取組みに興味を持って回答できる。

(5) その他 質疑・意見交換及び提言など

- ① 子供たちが孤立化してしまわないよう、地域、学校、保護者が連携した見守りができればと思う。
- ② 摂津の小中学校では GIGA スクール構想に先駆けてタブレットを使った授業が展開されている。北千里高校でも早くそのような授業が展開されるようになることを期待する。
- ③ 1月末、小学校でも授業研究をする。次年度は小学校と高校で何らかの地域連携ができればと思う。
- ④ コロナからの引きこもり防止のために吹田市では健康づくりを推進している。次年度には、高校生からも提案をいただくなど、新しい取り組みができればと思う。

- 「主体的・対話的・深い学び」や「GIGA スクール構想」など、コロナ禍の中でも現場の先生方には大きな課題。例えば摂津市では、市内他校での公開授業研究や、先進的な取り組みをしている、他市や他府県への研修出張など積極的に行っている。その成果もあって、始まったばかりのGIGA スクール構想の中でも、摂津ではいち早くタブレットを使った授業を実施し、研究会等も積極的にすすめることができた。北千里高校においても、そういった試みができればと思う。
- コロナによる引きこもり対策として、DIOS 北千里では「健康」を推進。北千里界限は自然公園に恵まれ、野鳥や史跡等見所が多くあり、また府営住宅の跡地売却に伴いマンション建築ラッシュで、新住民が増えている。今回の資料にもある、北公園を中心にウォーキングイベントの際に、北千里高校の先生による「ピンク火山灰層」の見学を開催。大変好評。地域連携の新しい形を垣間見た。来年は、社会貢献同好会や各クラブのメンバーと色々なプログラム開発をする事で、自分なりの発信や、事前調べ、連携の仕掛け等を通じて、大切なコミュニケーションによる教育が出来るかも知れない。
- 厳しい状況のなか、授業の再開、そして、遠足、文化祭、体育祭とすべての行事をやり遂げられた先生方、誠にお疲れさまでした。先生方の工夫と努力に敬意を表します。

情報提供…吹田市内の小中学校では来年1月14日から全児童生徒に一人一台の端末（小学校はタブレット・中学校はノートパソコン）が渡され、大きく授業変革を行う。それに伴い本校では、デジタルシチズンシップ教育の先行導入校として研究授業などを行う。1月末になるが見学をいただければ。

小学生と連携できることがあれば、一緒に清掃活動ができたらと思う。
（コロナ感染所為が終息した、来年度以降にでも是非！）

- 今年は、新型コロナウイルスの影響で生徒も慣れないことが多く、特に1年生は中学校からの環境の変化もあり、戸惑いが多いかと思う。生徒同士の接点が少ないと孤立しSNSなど、興味があるものに依存してしまう可能性があるため、学校と地域、保護者も連携して見守ってあげたいと思う。